

2024年3月期 決算説明会 質疑応答要旨

日時	2024年5月13日（月） 13:00～14:30
説明者・対応者	<p>代表取締役社長執行役員 小河 義美 (社業全般、愛せる未来研究所担当、ポリプラスチックス株式会社社長)</p> <p>代表取締役専務執行役員 杉本 幸太郎 (事業支援本部長、企業倫理室担当、サステナブル経営推進室担当、デジタル戦略推進センター担当)</p> <p>取締役専務執行役員 榎 康裕 (経営戦略本部長、SCM本部長、セイフティSBU担当、ヘルスケアSBU担当、マテリアルSBU担当、スマートSBU担当、ライフサイエンスSBU担当)</p> <p>専務執行役員 宮本 仰 (ポリプラスチックス株式会社 代表取締役社長、パフォーマンスマテリアルズ本部長)</p> <p>常務執行役員 根本 洋一 (事業支援本部副本部長、同本部 FP&C グループリーダー)</p> <p>執行役員 黒澤 和哉 (マテリアル SBU 長)</p> <p>執行役員 両保 栄一 (セイフティ SBU 長、Daicel Safety Systems (Jiangsu)Co., Ltd. 董事長、Daicel Safety Technologies (Jiangsu) Co., Ltd. 董事長、Daicel Safety Systems Americas, Inc. Chairperson)</p> <p>執行役員 廣川 正彦 (事業支援本部副本部長、同本部 IR 広報グループリーダー)</p> <p>ポリプラスチックス(株) 執行役員 後藤 啓介 (経営戦略本部長、TAP および Advanced Monomers Private Limited (AMPL) 担当)</p>
説明資料	2024年5月9日掲載

(全社)

Q：説明資料 P6 にある短期、短中期のタスクフォースの効果とその効果が発現する時期について教えてほしい。

A：短期課題のセルロースタスクフォースについては、すでにコストダウンの効果が出ているが、さらに効果を出していく。リンスターパルプは木材パルプに比べて価格が高く、安定調達が課題。製法転換により使用可能な品種をリンスターパルプから木材パルプに拡大し、さらには、より安価なグレードのパルプを使いこなすことで、原料コスト低減のほか、パルプ種の制約をなくすことによる需要変動に応じたタイムリーな生産体制を構築し、在庫削減などの効果を出していく。生分解性については社外パートナーとの協業も検討する。xEV タスクフォースについては、まずはセイフティ事業の電流遮断器に注力する。欧州、中国でのマーケティングを強化し、2026年3月期には効果を出したい。短中期課題のマイクロデバイスタスクフォースについては、2026年3月期にレジストポリマーの商業プラントを稼働させる。中期的には、過酢酸誘導体やセイフティ事業の火薬の製造プロセスにも実装していく。これらのような危険性が高いプロセスは、取り扱い量を極小にしたマイクロ流体デバイスと相性がよい。技術的な課題はあるが対応していく。ビヨンドコーティングとバイオマスアセチルチェーンについては少し時間がかかるとみている。なお、これらや長期課題に記載のテーマは早くから取り組むことで将来的にこの領域をリードできる可能性が高い。長期的な視野をもって取り組んでいきたい。

(スマート事業)

Q. 利益が低下傾向にあるが、各製品の回復の見込みは？

A. 2024年3月期は半導体関連製品の需要が弱く、フォトレジスト材料および電子材料向け溶剤の数量が減少した。

足元では需要は回復傾向にあり、2025年3月期は数量が回復し、利益も向上する見通し。機能フィルムについては、2023年3月期に大きく収益貢献した防眩フィルムが競争激化により2024年3月期に大きく落ち込んでしまった。

2025年3月期は車載用フィルムや離型フィルムとその他機能フィルムの数量を伸ばす計画。

(セイフティ事業)

Q：2024年3月期の第4四半期の業績は第3四半期と比較して減少しているが、この背景は？ また、2025年3月期は、インドでの生産拠点稼働の効果と、北米での生産地統廃合の効果が年間通じて顕在化する、との理解で良いか？インフレーター販売数量の見通しと合わ

せて教えてほしい。

A：2024年3月期の第4四半期は、一部の日系自動車メーカーの生産調整に加え、中国自動車メーカーの販売数量も減少したことが影響。2025年3月期での効果の顕在化についてはご認識の通り。インド拠点は24年3月期に2ライン設置しており、25年3月期にも1ライン設置する。インフレータの販売数量は対前年度で10数%増加させる計画。

Q：2025年3月期に中国、インドでインフレータの販売数量が増加する背景は？一台当たりのエアバッグ搭載率が上昇しているのか？

A：中国については、中国自動車メーカーでのシェア拡大の効果によるもの。インドにおいては6エアバッグ化の動きはあるが、この普及率は低く、拡販は主に当社シェアアップ、加えて市場成長によるもの。

(マテリアル事業)

Q：2025年3月期の業績予想について、アセテート・トウの需給環境、販売数量と販売価格、酢酸原料（一酸化炭素）プラントの減価償却費の対前年度の増加額を教えてください。また、2024年3月期は在庫影響が大きくマイナスに出ていたと思うが、2025年3月期はどう見ているのか？

A：アセテート・トウの需給環境は2024年3月期に引き続き堅調な需要を想定している。生産ラインの最適化や品種の削減など生産・営業双方の努力により、販売数量は前年度と比較して数%の増加を計画している。販売価格については、フォーミュラにより2025年1月以降の価格は現行水準よりも低い価格を想定している。2025年3月期の酢酸原料（一酸化炭素）プラントの減価償却費は対前年度で約90億円増加する計画。在庫影響については、2024年3月期は高い在庫の影響でマイナスに出たが、2025年3月期はプラスに出てくる見通し。

(エンジニアリングプラスチック)

Q：ポリプラスチックの各増強設備の稼働時期は？

A. LCP、POM（9万トン）は2025年3月期の第3四半期中の稼働を計画。COCは2027年3月期上期中。POM（6万トン）は、2024年8～9月に現設備を停止し移設して再稼働するもので、2027年3月期第3四半期中の稼働を予定。

Q：2025年3月期の販売価格はどのような計画なのか？

A：POM、LCPの増産によりスケールメリットを生かした拡販を行っていく。販売価格については戦略的に低い価格を設定し、販売数量を確実に増加させる。

(財務戦略)

Q：財務戦略について、現在の財務構成を維持していく考えなのか？

A：現在自己資本比率は 50%弱で、格付機関から A+ の格付け。資金調達力の維持のためにこの格付けは維持する考え。会社の成長にあわせて総資産と純資産は増加していくが、エクイティコントロールを実施し、有利子負債も活用していく。

以上